



# 中高生とともに差別と闘う

## 『無免許運転は、違法です』

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



明けておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。この間、数学の授業と人権との関わりについてお話ししてきました。あまりにも長いので、これで最後に。

### 無免許運転は、違法です

「先生はいつ、部落問題の授業をする免許を取ったんですか？」

駆け出しの頃、大好きな活動家に問われたことがあります。はたと困りましたが、「ない」ものを「ある」とは言えません。「もっていません」と素直に答えると、「無免許運転やないですか」と。その通りです。「よく知りもしないのにどうやって教えるっていうんですか？」

その通りです。よく知りもしないのに、さも「何でも知ってる」かのようになり、もつともらしい上辺だけのことを、知ったかぶりして教壇でしゃべる。これは明らかな、嘘つきです。いつぱいいつぱいの生活の中で生きていくことを余儀なくされている子どもたちが体験している現実の方が、よっぽどリアリティがあり、差別の現実をよく知っています。そこから学び合うこと以上の教材がどこにあるというのでしょうか。だからこそ上から目線ではなく、立場を越えて「共に学ぶ」しかないのだと思います。

もちろん先に生まれた以上、生きてきた時間だけ多くのことを知っているから、子ども達に教えることはあると思います。ですが、知ったかこそ眼が曇ってしまい、正しい

判断ができないこともあるように思います。むしろ、あまり知らない子どもの方が、純粹に物事を受け止められ、正しい判断ができることもあるのではないのでしょうか。そう考えると、人権学習というものは、やはり、「共に学ぶ」という視点が得られているような気がします。つまり教員も人権学習においては、共同学習者にすぎないのだと思います。

人権ワークショップなる手法が世に出始めたころ、個人的には「何だこれは」と懐疑的に思っていました。けどよくよく見ていくと、そこに人権の視点が確かにあって、「なるほど」と思わせられました。

ところが、私の身近でよく見られる人権ワークショップの授業では、残念ながら「人権の視点」が話題にのぼることがなく、共有化されることもなく、単に「ゲームをやっておしまい」のように思えるケースをよく見かけます。そしてそれが絶賛され、真似られる。導入としてのアイスブレイキングや小学生相手ならまだしも、中高生相手にそれはあり得ません。「もつと子どもたちに真正面から向き合ってよ」と、忸怩たる思いになります。

### ともに大事

先日ラジオを聞いてみると、番組出演者が、「受験勉強はひとりやらのものです」と、ハッキリ断言していました。どこまでの真意が分からないので何とも言えないのですが、「何だ

かなあ」とモヤモヤした気分になったものです。けど、それはもしかすると、日本の大多数の意見なのかもしれない。みなさんはどうでしょう？多くの人がそう言われ、そうしてきたのではないのでしょうか。

私もそのひとりでした。でも、今の私はちよつと違います。

「ひとりやりの力、ともに大事」これです。

ひとりやりのことを否定するつもりはありません。受験のときはまさにそうですから。でも、そればかりを強調するあまり、逆に仲間と共に取り組む力がつかなくなっているようにも思います。

社会に出れば、その多くが協働的に取り組まれています。高度な研究に限らず、多様性に富んだチームが組まれることも当たり前になってきました。つまり、「ひとり」でやるのではなく、「仲間と共にやる力」が必須だというわけです。ならば、子どものときから計画的に仲間づくりを進めていかないと！と思うわけです。同和教育も人権教育も、そのことをずつとずつと提唱してきました。

小さい頃は、「お友達と仲良くしましょうね」と言われ、それが正しいこととして子どもは素直に受けとめ、仲良くしようとしています。ところが受験が目の前にちらついてくると、その関係性はプチプチと断ち切られたりします。

「いつまでも一緒に居られるわけじゃ

ないんだから——」

「あなたはあなたの人生を生きていくんだから——」

と、もつともらしいことを言っている子どもを殻に閉じこめ始めてはいないでしょうか。そう言われた子どもは、「あれっ？今まで言っていたこととちよつと違うぞ」と、どこかモヤモヤとした違和感を感じながら、次第に自分の殻を作り始めていく。もしかすると大人の矛盾した言葉が子どもの中でひずみとなり、ひいては社会のひずみとなり、学校や社会でのいじめ問題の下支えとなっているのかもしれない。飛躍した発想でしょうか。

### 生涯燃やし続けられる学びを

人権の視点を将来を見通し、仲間づくりの実践をするのと同じで、いじめ問題の決定的な違いが生まれます。何しろゴール地点での見かけは同じでも、その辿ってきた経緯がまったく違うのですから。単に受験をパスするための学力ではなく、より大きな目標に向かってつづけてきた学力なわけです。ですから受験が終わったからといって、燃え尽きることはありません。本当に大切なのは、燃え尽きることなく、生涯燃やし続けられる学びなのだと思えます。

以上、数学の授業と人権との関わりについて、長々と書いてしまいました。ごめんなさい。

次号からは心機一転！